



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/15 (月)	+ 1,900	▲ 14,900	▲ 13,000	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行 (30年・個人)	CP等買入 ▲ 200 国債補充供給 + 35,300		欧: ユーロ圏鉱工業生産 (11月)
1/16 (火)	+ 2,000	+ 1,000	+ 3,000			CP等買入 + 4,000	
1/17 (水)	+ 2,000	▲ 29,000	▲ 27,000	国債発行 (5年)			米: 米地区連銀経済報告 (ページブック) 公表 米: 鉱工業生産 (12月) 欧: ユーロ圏CPI (12月)
1/18 (木)	+ 1,000	▲ 4,000	▲ 3,000				日: 鉱工業生産 (11月) 欧: ECB議事要旨 (12月会合)
1/19 (金)	+ 1,000	▲ 10,000	▲ 9,000	国債発行 (20年)			日: 全国CPI (12月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆6,700億円減少の541兆8,700億円から始まった。その後、国債発行や源泉税揚げ等の要因により、12日には、538兆8,000億円 (速報) まで減少し越過となった。

無担保コールON物は週初▲0.017%から始まった。その後は12月積み期の日銀当座預金残高最終調整のため取り手の調達意欲が旺盛となり、12日の同金利は▲0.010% (速報) まで上昇した。

ターム物は1W~1M物を中心に▲0.030%~▲0.010%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、18日に鉱工業生産 (11月)、19日に全国CPI (12月) の発表、海外では17日に米地区連銀報告 (ページブック)、18日にECB議事要旨 (12月会合) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは年初▲0.10%近辺から始まり、国庫短期証券3Mの入札が行われた5日は、▲0.10%~▲0.09%で取引された。3連休明けの9日は▲0.12%台が出合となり、翌10日の取引では一時▲0.15%まで低下した。11日以降は▲0.10%近辺で多く取引された。SC取引は2年445~456回債、5年149~163回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,400億円で、週間償還額約8,600億円を上回った。発行市場は鉄鋼や石油、建設等の業態で大型の発行が見られた。発行残高は先週末時点の26兆9,473億円から1月11日時点で27兆1,413億円に増加した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。11日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.003% (前回0.005%)、平均落札レート0.018% (同0.023%) と按分レート、平均落札レート共に前回比で低下した。

来週の償還額は、約6,600億円となっている。発行市場は、一部の銘柄による期明けの大型発行も見込まれることから活況を予想する。発行レートは、発行期間に応じてばらつきが見られると思われる。金融政策変更の警戒感等からレート水準が定まりにくく、発行期間の長い銘柄については上昇余地を探る展開が見込まれる。

<TDB>

9日の6M (1205回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1583% (前回債▲0.1282)、平均落札利回り▲0.1723% (前回債▲0.1402%) となった。12日の3M (1206回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1944% (前回債▲0.1621)、平均落札利回り▲0.2080% (前回債▲0.1775%) となった。来週の入札は、18日に1Y、19日に3Mが予定されている。